

平成27年度第5回河南町総合戦略推進会議 議事要旨

日 時：平成28年3月25日（金）10時～11時30分
場 所：河南町役場4階 大会議室北
出席者：委員15名／欠席委員7名
事務局4名
傍聴者1名

1. 開会

■新委員の紹介と委嘱状交付

(事務局)

- 委員を務めていただいていた大阪大谷大学の村田先生は、滋賀大学へ転任されましたので後任として、大阪大谷大学教育学部の金川廣一郎准教授にご就任いただいたので紹介させていただく。

(金川委員)

- 教育学部で、主に小学校、中学校の先生を志望している学生に対して、語学の教え方などについての授業を行っている。河南町をもっと賑やかにするという、日本全体にとっても大切なプランに参加できて光栄に思っている。よろしく願いいたします。

(武田町長より委嘱状を交付)

■武田町長挨拶

(武田町長)

- 本日は第5回目の総合戦略推進会議となるが、皆様に参加いただき感謝している。
- 来年度は本町の町制施行60周年にあたる。いろんな企画をさせていただいているが、大阪芸術大学芸術劇場で4月24日に「なんでも鑑定団」の収録がある。お宝を出してもらう方が100人以上となるようテレビ局から依頼があったが、集計の結果、203人の方からお宝の申し出があり、お宝の点数は371点だったと思う。大盛況という結果となった。
- 大阪芸術大学芸術劇場には1階、2階、3階があり、オペラができるような劇場となっている。3階は見下ろすような角度になる。6名の方が出演されるが、その6名の応援団の席を作っておかないといけないということで、結構使えない席もあるため、最終的には400名弱くらいの会場となったが、4,000名くらいの応募があり、昨日、抽選を行った。これは河南町のよい宣伝になり、後々までの語り草になると思う。
- これまで4回の会議で皆様の英知をいただけたことを感謝している。本町の若手職員も知恵を出してきたが、今回は皆様のお墨付きをいただきたい。今後とも見守り、叱咤激励をいただきたい。河南町が生き残っていけるよう、引き続きご支援をいただきたい。

(町長退席)

2. 第4回推進会議議事要旨について

(柿沼会長)

- 平成27年度第5回河南町総合戦略推進会議を開始する。ただ今の出席委員は14名で、過半数に達した。本日の会議は河南町審議会等の傍聴に関する取扱い要綱により、1名の傍聴を許可している。

議事に入る前に、前回の第4回推進会議の議事録の確認を行いたい。訂正があればご指摘いただきたい。

(委員)

- 4ページの上から3行目。「鉄道を敷設して和歌山へ抜ける」とあるが、和歌山ではなく奈良が正しい。

(柿沼会長)

- ではその箇所を訂正の上、町のホームページで公開したい。

(柿沼会長)

- ・続いて昨年の12月14日の第4回推進会議以降の経過について、事務局から説明する。

(事務局)

- ・経過の説明およびお詫び等を申し上げたい。当推進会議は昨年8月7日に第1回目の会議を行った。会長、副会長の選出を行い、策定に向けたスケジュール案を提案し、各委員の皆様にご了解をいただいた。その後、昨年末までに3回の会議を行ったが、当初の予定よりも会議の開催が増え、委員の皆様にはお忙しいなか申し訳なく思っている。また、会議の進行や策定作業についても、事務局の不手際があったこと、会議でご議論いただく内容や戦略の立て方などについての説明不足等もあり、委員の皆様には申し訳ないと感じている。
- ・昨年12月に会議を開いていただき、人口ビジョン、総合戦略の素案に対して色々なご意見やご提言をいただいた。本来であれば、当推進会議を開いていなければならなかったところ、年末から年始にかけて、素案の修正等、委員の皆様にはご苦勞をかけ、お礼申し上げたい。
- ・この修正案をもとに、2月にパブリックコメントを実施し、2月21日には住民の方を対象に説明会を開催した。しかし事務局の不手際でこの説明会の参加者が28名と少なく、町の将来を考える人口ビジョン、総合戦略がこれでいいのか、事務局の努力が足りないといったご指摘もあった。その後、区長会や各地区の区長のご協力をいただき、町内の9か所で説明をさせていただき、そこで町の将来についてのご意見等をいただいた。昨年8月からこれまでの間、事務局の不手際については、委員の皆様にお詫び申し上げたい。
- ・本日の会議は人口ビジョンおよび総合戦略を策定する本年度最後の会議と考えている。本会議でご議論いただき、ご意見をまとめていただきたい。

(柿沼会長)

- ・ただ今の事務局の経過説明について何か質問はあるか。

(質問はなし)

3. 案件

(1) パブリックコメントの結果について

(事務局)

- ・資料1をもとに説明する。2月4日から24日までの3週間、パブリックコメントを実施したところ、7名から意見があった。それをまとめて町の考え方を示したものが資料1である。これをホームページでも公開する予定。具体的な事業の提案については、総合戦略は大きな方向性を決めるものなので、参考としてお聞きするに留めている。主な意見を紹介する。
- ・まず、1ページの「町長の挨拶を入れてはどうか」については、まちづくり戦略の最終決定段階で入れる予定。「発行元を記載してはどうか」については記載する。
- ・ページをめくっていただくと、真ん中あたりに脱字の件がある。その下の「取り組みの方向性がわからない」に関しては、河南町のまちづくり戦略はまちづくりの方向性を示すものであり、施策は個々の事業ごとに立案し進めていくものとする。タウンミーティングの要望があったが、実施や方向等については検討していく。その下の個々の提案についてはお聞きするに留める。高齢者の交通の便については、24、31ページの健康づくりや地域交通で示している。3ページの「広報誌に掲載してほしい」については広報かなん4月号に掲載する予定。
- ・「河南町の収支状況」に関しては、戦略はまちづくりの方向性であり、個々の事業はそれぞれ立案します。決算状況については町のホームページ等での公表も含めて検討する。
- ・5ページの「安心して結婚・出産できる環境の整備」ではLGBTに関する記述がないということだったが、まちづくり戦略の「3. 笑顔いきいきかなん」では、すべての人々が活躍できる地域づくりを目指しており、まちづくりにおいて人権を尊重している。ここで記載

している「安心して結婚・出産できる環境の整備」というのは法制度上の結婚を応援するという事なので、意見としてお聞きします。

- ・以上が主なパブリックコメントへの対応となる。
(柿沼会長)
- ・資料1に関して質問はあるか。
(質問なし)
(柿沼会長)
- ・参考に伺いたい。7名からのご意見はどういう媒体で出たのか。
(事務局)
- ・持参が2名。その他5名はメールによる。

(2) 住民説明会の結果について

(事務局)

- ・資料2に基づき説明する。2月21日にかなんぴあで説明会を行った。第1部で案について説明し、第2部で意見交換会を行った。参加者が28名と少なかったことから、意見交換会では、先程にもあったような意見が出た。
- ・説明会の周知不足、取り組みの内容が具体的にわかる資料がほしい、少子化問題などが事業者と住民が一体となって解決する必要がある等の意見が出た。それに対して町は、説明会については、方法等を含めて庁内で検討する、取り組みの内容が具体的にわかる資料については、住民の皆様に関わりやすく資料を作りたい、事業者と住民が一体となって解決する必要があるという意見については、一体となって将来について考える体制を考えたいと回答した。
- ・その後の対応については、区長会や区長の協力を得て、地区あるいは自治会単位で開催した。3月3日から20日にかけて、9か所で開催した。参加者数はのべ218名。色々な意見が出たが、「取り組みの内容がわかるようにしてほしい」「調整区域で、子どもの家を建てるにしても、都市計画の壁があり建てにくい」「交通の便が悪い」「循環バスを充実してほしい」といったものがあった。

(柿沼会長)

- ・資料2について質問はあるか。
(なし)

(3) 河南町ひとづくりビジョン(人口ビジョン)(案)について/河南町まちづくり戦略(総合戦略)(案)について

(事務局)

- ・資料3、4、5を参照いただきたい。河南町ひとづくりビジョン(人口ビジョン)、河南町まちづくり戦略(総合戦略)(案)については説明済みのため、その間のパブリックコメントや内部での見直し等について説明したい。ビジョンの8ページで、右下の74人が当初は45人となっていたので訂正した。11ページの「地域経済へ与える影響」だが、当初は「空家の増加等による不動産価値の低下や人口減少によるマンション等の経営困難」となっていたが、「人口の減少や空き家の増加による不動産活用の低下」と訂正している。その右側で「公共施設の再編統合」としていたところは、町の計画である「河南町公共施設再編整備基本計画」に合わせて「公共施設の再編整備」と訂正した。最後に奥付を追加。
- ・資料4の9ページで、「SNSなどを通じて」の「通じて」が間違っていたので訂正した。「民間のノウハウを活用した広報広聴の充実」の「の」が抜けていたので訂正した。
- ・23ページ、30ページの人口ビジョンの将来展望の数字は、平成31年には年間10人程度の社会増ということで、転入と転出の差引でプラス10人となるよう訂正した。23ページでは転入が524になっていたが、488である。30ページでは転出491を478に訂正。差し引き10人の社会増になるように訂正した。
- ・30、31ページでは当初は「交通網整備に向けた長期的取り組み」となっていたが、9ページ

との整合性をとり訂正している。41 ページの「SNS などを通じて」の「通じて」を訂正。44 ページの真ん中部分、(再掲)を追記した。最終ページには奥付を追加。最終的には町長の挨拶が表紙と目次の間に入る予定。ひとづくりビジョン(人口ビジョン)、まちづくり戦略(総合戦略)に加え、資料編がある。その3つがセットになり、今回の計画の1冊になる。

- 資料編について説明する。本推進会議があり、その下に庁内の組織として創生推進本部があり、さらにその下にプロジェクトチームを作り、3層体制となる。プロジェクトチームで出た案について、この推進本部でご意見をいただく。2、3 ページは会議等の開催状況。パブリックコメント、住民説明会などについて。

(柿沼会長)

- 何か質問はあるか。

(質問なし)

(4) 河南町まちづくり戦略(総合戦略)の取り組みについて

(事務局)

- 資料6を参照してください。方向性を示すだけでは具体的にどういふことをするのか分かりづらいというご意見が多数あった。それを見える形にした。黒い★印はH27年度の新規のもの、白い☆印はH27年度の拡充事業。

(柿沼会長)

- 質問はあるか。

(委員)

- 2 ページに「中学校普通教室エアコン整備」とあるが、小学校はどうなるのか。

(事務局)

- 小学校は検討の段階にあり、具体的に何年度から取り組むかなどはまだ決まっていない。

(委員)

- 今年は異常な暑さであった。我慢できないほど暑い。昔の環境とずいぶん変わってきているため、早期に対応願いたい。

(柿沼会長)

- いつとは言えないが、ビジョンは全体の方向性を示すものであり、方向性としては進んでいるということでご理解いただきたい。

(委員)

- 子育て施設には保育園、こども園、幼稚園と3種類あるが、私立の幼稚園ではスクールバスが入っている。たとえば、富田林の私立幼稚園のバスが河南町内を回っているのを見かける。今後、幼稚園とこども園と保育園の関係はどうなっていくのか。

(事務局)

- 教育委員会と調整しつつ進めている。幼稚園は現在、4歳児、5歳児の2年だが、3歳児保育という要請がある。幼保連携ということで、幼稚園と保育園の連携を進め、そこで3歳児についても検討される。私立幼稚園にはバスが回っている。将来的にどういう形になるかについては、認定こども園が幼稚園の部分、保育園の部分の両方を合わせ持ったものなので、その辺について考えるという方向性で進めていきたい。

(委員)

- ただ、子供は日々、どんどん成長していくので、これから考えようというのではなく、今考えないといけない状況である。私立幼稚園は教育費が高い。河南町の幼稚園・保育園に行く子どもたちがどういう形で河南町の中でどこに通っているのかを最近考えるようになった。親としては送迎するスクールバスが導入されることによって、河南町内の幼稚園や保育園に目が向いてくるのではないかと考えている。もう少し5年間隔くらいの具体的なところをどのように考えているのか。

(事務局)

- ・幼稚園については、ある程度の時間帯設定があるが、保育園は朝早い方や、夜に時間を延長してほしいといった要望のある方などケースバイケースなので、教育委員会にも要望をお伝えし、どんなことができるかを考えていきたい。

(委員)

- ・難しいとは思いますが、その辺を突破してほしい。そうすれば、子供を育てるうえで河南町が良くなるのではないかと思う。
- ・後ろの方に広報の話（シティセールス、14 ページ）で、SNS を活用したという芸大生について書かれているが、行政がバックアップしつつ、芸大生と一緒に地域 FM 放送を活用して広報活動をしていくのもよいと思う。耳から入ってくる情報というのは、忙しい人やお年寄りに受け入れやすい。インターネットなどもあるが、町として、芸大と一緒に取組んでいくとよいのではないかと思う。芸大はイベント的なことをしているが、その幅を広げて、芸大生と一緒に町での広報を考えていけば、これからの時代にはよいのではないかと思う。

(事務局)

- ・まずは大阪芸術大学と包括協定を結び、どういったことができるかについてご意見を含めて検討していきたい。

(委員)

- ・今町の中で何が話し合われて、何が起きているのかを知るためにも、広報活動には注力していただきたい。

(委員)

- ・「資料6 河南町まちづくり戦略（総合戦略）の取り組み」はすっきりとしたまとめとなっていてわかりやすい。ただ、私自身の意見としては、この内容は基本的には戦術、すなわち河南町の人口をいかに維持するかといった目的のための施策ということである。
- ・推進にあたっては、書かれているそれぞれの項目を並行してやっていけるわけではない。限られた原資をもとにどういうふうやっていくか。それを戦略的にどのように取り組んでいくかということを明確にする必要があるのではないかと思う。住民説明会で聞いた話によると、取り組む内容は分かったが、全て同じようにできるかどうかは疑問であり、推進していくからには優先順位をつけ、順位の高いものから進めていくべきである。
- ・河南町全体の重要なことでもあり、住民も含めた推進体制を作してほしいという意見も出ていた。資料6を踏まえて、これをどのように戦略的に構築していくかという提案をこの推進会議で出した方がよいと思う。
- ・一つは、人口づくりも含めて、法整備等を含めて、これを推進していくためには、それぞれの箇所をどのように法整備していくかを検討していくべきである。そういう提言が必要である。
- ・加えて、戦略を推進していくための町全体としての強いリーダーシップが必要である。武田町長は退席するのではなく、最後のまとめ、意見も聞いていただきたいかった。町長がリーダーシップを取ることが必要であり、各部局に任せて、これらを並行してできるわけではない。これからの推進体制をどのように実行して、この資料に書かれている PDCA サイクルをいかに回していくかということを推進していく姿勢を出すことも重要だと思う。
- ・内容についてはどこの市町村でも同じようなものを策定しており、このまま進めていけるかどうかという点もある。近隣の市町村と比べて優位なのかどうかはわからない。人口減少を食い止められるという保証もない。そのためには近隣の市町村と連携しつつ、河南町の特長を生かした連携をとり地域全体の人口減を減らすような戦略を立てるべきである。その中で河南町はこういう特長があるので、こちらに特化してやっていくなど、戦略的な方向性を打ち出していないと、この資料6は戦術で作っただけで、本当に実行できるかどうか疑問がある。たとえば、芸大とのコラボでやっていくとすれば、山城のバイパス付近に若い人向けのまちづくりのエリアを作る、あるいは広い土地を使って集客できるよう

な施設を作る、道の駅をそちらに移転させて集客できるようにするなど、思い切った考え方で行かないと、資料6の内容だけでは難しいと感じる。

(委員)

- ・住民説明会でも感じたが、町側に危機感がない気がする。子育て世代はものすごく熱心に色々なことを調べた上で、住む場所を選んでいる。その中で河南町は選ばれていない。それがどういうことかという危機感を持っていただきたい。このままではじり貧ではないか。本気で変えていくつもりでないと、変わらない。

(委員)

- ・皆さんのおっしゃる通りである。戦略的に取り組むなら、町として問題意識を持った住民とどのように連携を取っていくかが重要。問題意識があるということは、何らかの形でやる気があると思うので、そういう方をどのように活かしていくのか。そこを議論しないと、理想通りにはいかないと思う。

(委員)

- ・各プロジェクトやアイデアが凄過ぎて、全部実行するのは大変だという印象を持った。地域やお年寄り、子供のことがあるが、どこかに重点を置く必要があると思う。最初の住民説明会の参加が28名しかいなかったということだが、広報の仕方や時間の設定が良くなかったのか、河南町の方たちの関心が低いのかといったことも考えられる。
- ・最終的には200人集まったということだが、平均すると1回当たり20数名となる。浸透させることが必要だと感じる。
- ・大阪市の小学校では、道路沿いなどうるさい所に優先的にクーラーを設置しており、窓を閉めている。優先度の低い学校では窓際にミスト装置を設置して窓を開けられるようにしてある。子供のことを考えると、本当にクーラーが良いのかという疑問もある。何より、子供達が、クーラーがあると夏休みがなくなるのではないかと思うようだ。

(柿沼会長)

- ・住民によって危機感バラバラで、町が勝手になんとかしてくれるだろうという考えの人もいれば、みなさんのように危機感を持っている人もいる。今回の戦略を出すことで、みなさん興味を持つかもしれない。総合戦略を出すことは重要なこと。まだ魂は入っていないかもしれないが、それを入れていくのは我々の役割。まだこれで終わりではない。委員が話されたようなことも、別の段階で実行されていくと思う。

4. その他

(事務局)

- ・現在の案は、最終的には町の幹部会議を経てからの公表となる。27年度から31年度にかけての5年、PDCAサイクルをもって検証していく体制をとっている。来年度も集まっていたら、事業の実施状況の検証もしていただきたい。

以上